縄文時代中期（約 5,500 年前～約 4,100 年前）

大集落をつくった人たち

縄文時代中期は温暖な気候で、ブナ・ナラ・クルミなどの落葉広葉樹が広がる。後半には海退現象も始まり、干潟は湿地帯に変わり、海水産のハマグリ・アサリから汽水産のヤマトシジミに変わる。

前半は５軒から８軒でムラをつくり、円筒土器文化が続く。土器の把手や口あたりに人の顔や足、イノシシ・クマ・ヘビ・フクロウなどの形が見られ、何らかの呪術と関連があると考えられている。後半から東北南部から大木式の影響を受けた土器にかわり、地床炉から複式炉（火の信仰が考えられる）に発展する。土偶が出現し、後半はより人に近い十字形の土偶になり、石棒が発達する。住居内に石を立てた祭壇のようなものも出土する。土壙群や住居跡群が配置され、計画的なムラづくりがなされていった。北海道や北陸・関東方面から物資が搬入され、ヒスイやコハク、黒曜石やアスファルトが流通する。集落が大規模化する。

富ノ沢(1)・(2) A,B,C・(3)遺跡 中期中葉から後葉（約 5,033 年前～約 4,100 年前）

老部川と尾駮沼に挟まれた標高約 65m の段丘の最奥に位置する。国道 338 号線バイパス建設に伴い富ノ沢 (2) 遺跡 A 地区 B 地区が、原燃 PR センター建設に伴い C 地区が発掘された。富ノ沢(2)遺跡の東側が富ノ沢(1)遺跡で、西側に富ノ沢(3)遺跡がある。

富ノ沢遺跡の発掘調査風景

富ノ沢(2)遺跡 A 地区からは、約 410 軒以上の竪穴住居跡や土坑約 1,000 基、約 18,600 点以上の石器類が出土し、約 500 年以上続いた大規模な集落だったことがわかった。

富ノ沢(1)遺跡　中期後葉（約 4,567 年前～約 4,100 年前）集落衰退期の遺跡

富ノ沢(1)遺跡は、富ノ沢 (2) 遺跡 A 地区の馬蹄形集落衰退期の遺跡で、中期後葉の最花式期の遺跡と考えられる。

1　遺構　竪穴住居跡 2 軒、土坑 25 基（時期不明）

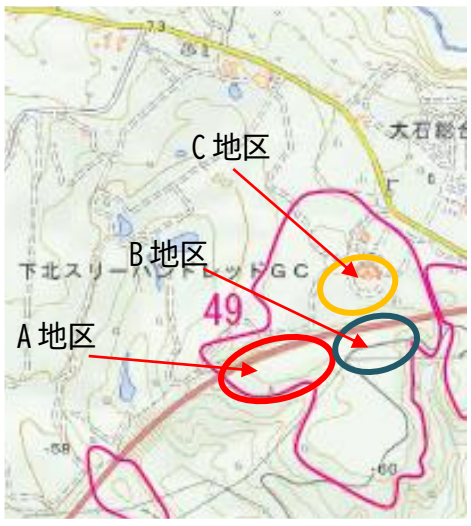
2　遺物　土器：円筒上層 b 式土器、最花式土器

富ノ沢遺跡(1)遺跡出土
円筒上層 b 式土器

図Ⅰ-２６　地図：富ノ沢遺跡群

富ノ沢(2)遺跡 A 地区　中期中葉から後葉（約 5,200 年前～約 4,100 年前）馬蹄形の大集落

約 410 軒の竪穴住居跡と円筒上層式期の掘立柱建物跡、中期後葉の土坑墓 2 群と小ピット群があり、集落の出入り口と考えられる開口部から西側へは円筒上層式期の土坑墓群が連なっている。東西約 180m南北約 10mの馬蹄形集落で 30m前後の幅の間に竪穴住居跡があり、その内側に東西 80m以上、南北 40m以上の手鏡状の広場がある。集落全体の 50％の発掘であるが、大規模集落の構造を把握できる数少ない遺跡である。



図Ⅰ-２７　地図：富ノ沢(2)遺跡

1　遺構　・竪穴住居跡　約 410 軒（円筒上層 c 式期から榎林式まで増加、最花式期から減少し、大木 10 式併行期では 馬蹄形を留めていない。約 500 年以上続いた集落である。間仕切りのある第 128 号竪穴住居跡も検出。）

図Ⅰ-２８　フラスコ状土坑

図Ⅰ-２９　獣骨石皿の出土状況

・掘立柱建物跡 9 軒（円筒上層式期、１間×１間が 2 棟、１間×２間が 7 棟）

・特殊施設：祭壇を持つ竪穴式住居跡 94 軒（円筒上層 c 式期から最花式期）

・土坑：７２５基（フラスコ状土坑 184 基、土坑墓 190 基、周溝のある土坑墓 37 基、土坑墓とみられるもの 154 基、23 基から副葬品出土（土器、石鏃、石槍、異形石器、磨石、石皿、石笛、コハクなど）。3 群に分けられ、円筒上層式期の土坑墓に一部環状にまとまる部分がある。

図Ⅰ-３０　土坑墓出土 石笛

・配石遺構：４基（円形１基の中に重複した土坑墓が 2 基検出。）

・広場に弧状の小ピット群と埋設土器 2 基

・捨て場 2 か所（南東部は円筒上層 c 式から最花式期に、南西部は円筒上層 c 式期から榎林式期にかけて形成）

富ノ沢(2)遺跡 B 地区　中期後葉（約 4,567 年前～約 4,100 年前）（大木 10 式併行期）小さな集落へ

東北地方南部に文化圏があった大木系土器文化が本県に波及する。もはや馬蹄形の集落を形成できず、小さな集落となっている。

1　遺構　・竪穴住居跡　9 軒（大木 10 式併行期）

・土坑：100 基（円筒上層 d 式期及び円筒上層 e 式期並びに最花式期の土坑が、各 1 基。大木 10 式併行期が 21 基。うちフラスコ状土坑が 6 基）

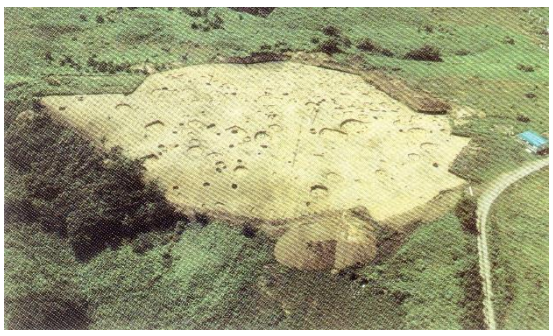
富ノ沢(2)遺跡 C 地区　中期中葉から後葉（約 5,033 年前～約 4,100 年前）B 地区とは別集落

主に大木 10 式併行期の集落で、B 地区の集落と同時期だが、別集落。

1　遺構・竪穴住居跡 79 軒（大木 10 式併行期が 60 軒）

・土坑約 179 基（フラスコ状土坑 69 基、3 基からアサリなど検出。そのうち 2 基は大木 10 式併行期）

・炉跡 3 基



図Ⅰ-３１　航空写真

大木 10 式併行土器

富ノ沢(3)遺跡　中期中葉（約 5,033 年前～約 4,567 年前）　集落成立期の遺跡

竪穴住居は、円筒上層 c 式期で、土器も円筒上層 c 式や d 式土器が多く出土していることから中期中葉の可能性が高い。

1　遺構　竪穴住居跡 3 軒、土坑 4 基、フラスコ状土坑 1 基

2　遺物　円筒上層 c 式や d 式土器が多く出土。

富ノ沢(1)(2)(3)遺跡からの出土遺物

出土遺物が特に多いのは、富ノ沢(2) 遺跡 A 地区と C 地区である。A 地区からは円筒上層 c 式から大木 10 式併行までの土器が多数出土。土製品や石製品も多い。C 地区からは大木 10 式併行土器が多数出土した。

・剥片石器約 9,550 点（石鏃約 1,900 点、石槍約 409 点、石錐約 425 点、石匙約 70 点）

・礫石器約 2700 点（敲磨器類の磨石約 930 点、石皿約 600 点、石斧約 530 点）

・不定形石器約 6,400 点、

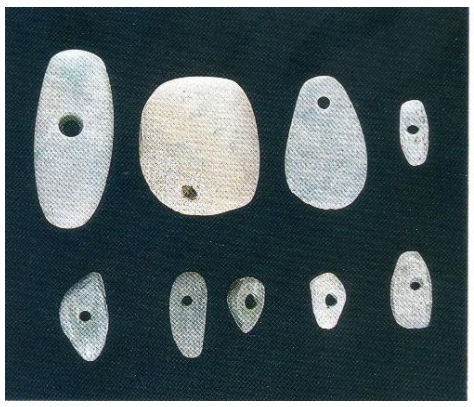
・土製品：土偶11 点、有孔土製品、円板状土製品（C 地区）など

土偶

土製品

・石製品：ヒスイ製品 10 点、コハクや有孔石製品、
玦状耳飾、石笛、青竜刀形石器、石冠等

・装身具：アオザメとホホジロザメの歯冠部に
孔が、各１点



図Ⅰ-３２　ヒスイ製品

図Ⅰ-３３　コハク製勾玉未成品

・動物遺存体（獣骨・魚骨）：シカ、イノシシ、
アシカがまとまって出土。サル、ツキノワグマ、クジラ、エイ類、ウグイ

・竪穴住居跡から多量のヒエ属の実(野生イヌビエより大きく、中期にすでに栽培されていた)

上尾駮(2)遺跡　前葉から後葉（約 5,500 年前～約 4,100 年前）　祭壇のある住居が出現

円筒上層ｄ式期の第４号竪穴住居跡の壁ぎわに特殊施設（祭壇？）が見られた。炉は地床炉である。

1　遺構　・竪穴住居跡 4 軒（前葉円筒上層ａ式期 1 軒：壁ぎわに柱穴があり、炉は地床炉。
中葉円筒上層ｄ式期 2 軒、後葉大木 10 式併行期 1 軒）中葉第 4 号竪穴住居跡には特殊施設（祭壇）が見られる。

・土坑 3 基（大木 10 式併行期）

2　遺物　・石器：石槍、石匙、
石篦、石錘、不定形石器、磨製石器、敲磨器類

・土製品：円板状土製品

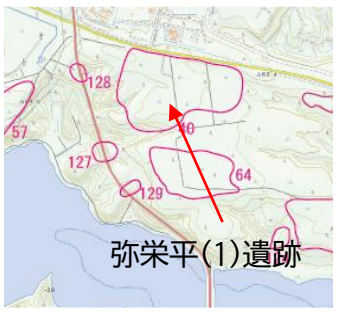
図Ⅰ-３４　祭壇のある竪穴住居

弥栄平(1)遺跡　中期後葉から後期前葉（約 4,567 年前～約 4,000 年前）　中期末葉のムラ

中期末葉の大木１０式併行期の竪穴住居跡は、炉や主柱穴の配置から３期に分けられ、この時期の集落の変遷を知るうえで重要である。

1　遺構　・大木 10 式併行期の竪穴住居跡 21 軒
（中期後葉 12 軒：テラス状遺構 3 軒で、炉の多くは複式炉）

・2 軒の住居跡(8H,12H)から小規模な貝層が出土
（アサリ、ヤマトシジミ、巻貝、魚骨、獣骨、鳥骨）



図Ⅰ-３５　地図：弥栄平(1)遺跡

2　遺物　・石器：石鏃、石匙、石篦、石錘、掻器、楔形石器、
半円状扁平打製石器、敲磨器類、石皿

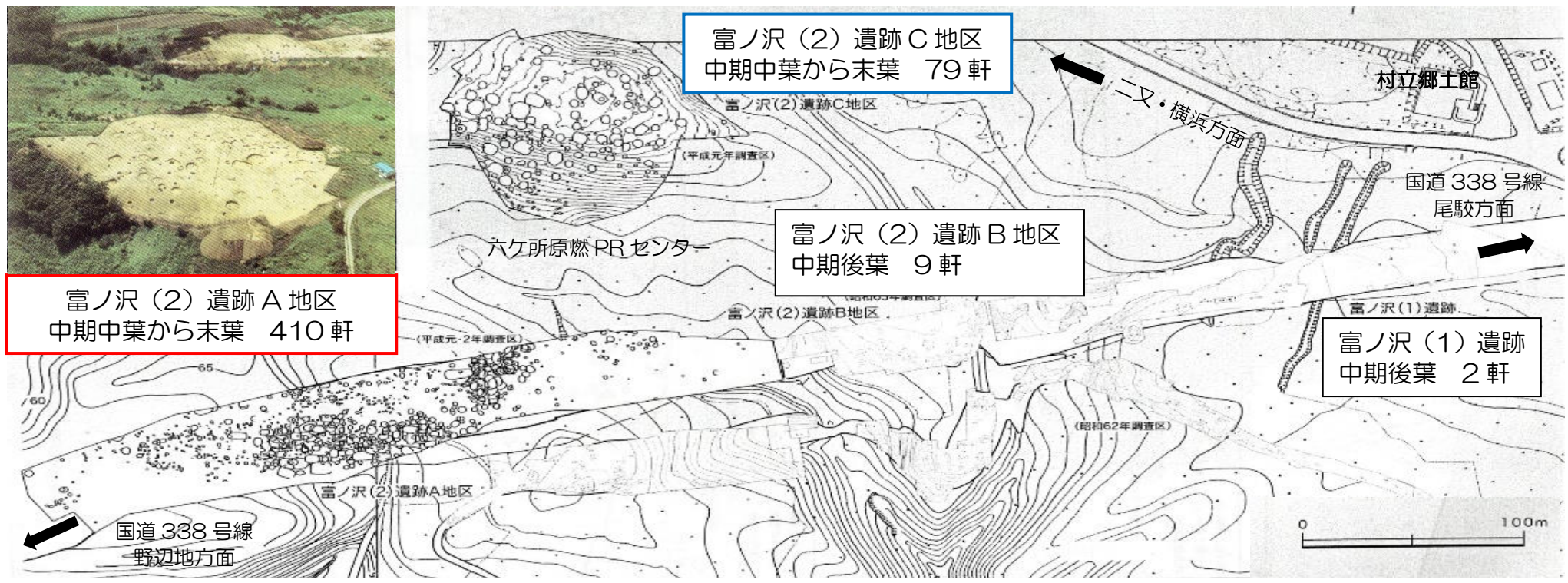
・土製品：円板状土製品

人骨入の甕棺土器

・人骨入り甕棺（後期前葉の十腰内Ⅰ式期の土器棺で、20 歳前後の女性の骨が入っていた）

大集落をつくった人々　富ノ沢（とみのさわ）遺跡

1　富ノ沢にあった二つの大集落　富ノ沢（2）遺跡 A 地区と C 地区

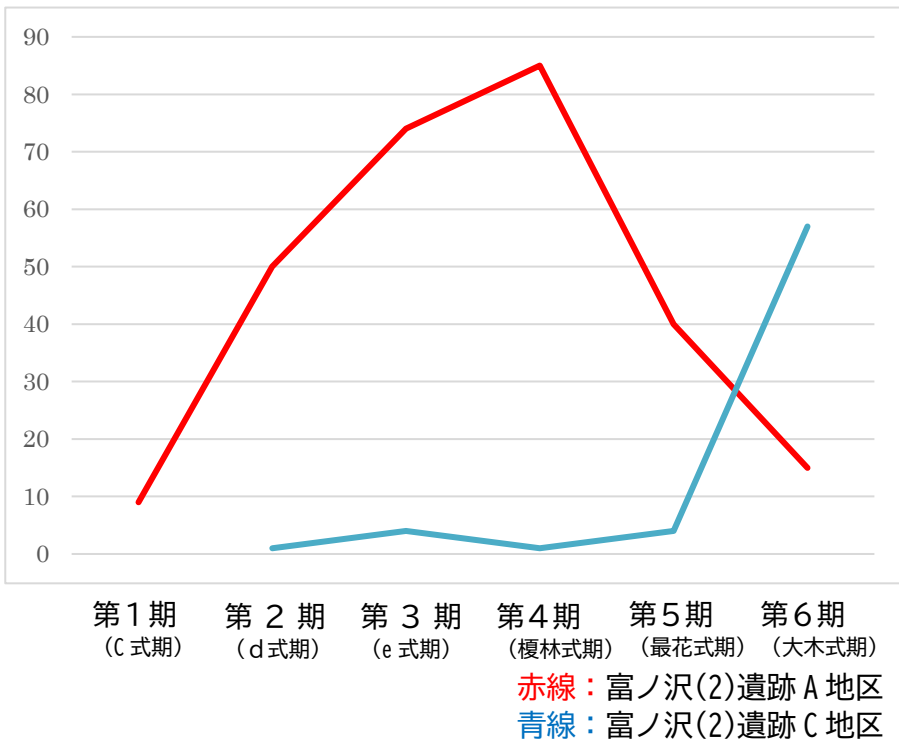


図Ⅱ-7　富ノ沢(1)(2)遺跡の地図

国道 338 号線のバイパス建設に伴い発掘された富ノ沢（とみのさわ）遺跡は、発掘の時期と場所により(1)～(3)に分かれ、特に富ノ沢(2)遺跡はＡ～Ｃ地区に分けられている。富ノ沢(2)遺跡 A 地区から４１０棟、C 地区からは７９棟の竪穴住居跡（たてあなじゅうきょあと）が見つかり、二つの大きな集落があったと考えられている。B 地区と C 地区は別の集落で、富ノ沢(3)遺跡は集落の初期、富ノ沢(1)遺跡は集落の終わりの頃のものと考えられている。

2　大規模集落の人口の変化

富ノ沢のムラの様子



富ノ沢(2)遺跡 A 地区と C 地区における住居址数の変遷

富ノ沢（2）遺跡 A 地区に東北地方北部の円筒系土器文化（えんとうけいどきぶんか）の集落があり、集落の第１期円筒上層（えんとうじょうそう）C 式期から第 4 期にかけて人口が増加した後、急激（きゅうげき）に減少（げんしょう）に転（てん）じた。逆に、C 地区は東北地方南部の大木系土器文化（だいぎけいどきぶんか）の集落で、第 6 期(大木 10 式期)に入ると人口が増加している。もともと A 地区の集団が C 地区に移り住んだのか、それとも、東北南部の方から異なる集団が移住してきたのかという、複数の考えがある。

その他、周辺では、第 6 期(大木（だいぎ）10 式期)に入ると弥栄平（いやさかだいら）遺跡など、今まで人が住んでいなかった場所に、新たな集落が生まれる現象が起きている。

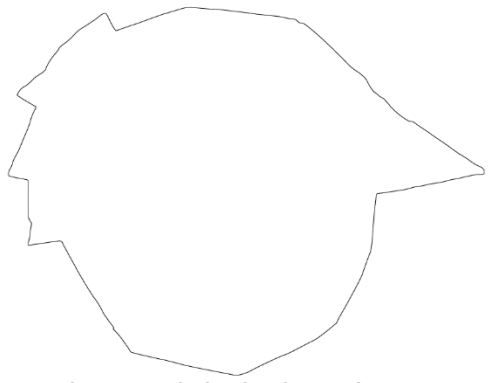
富ノ沢(2)遺跡 A 地区で集落が終わり、新たに C 地区で集落が出現！

3 富ノ沢(2)遺跡 A 地区と C 地区の集落の移り変わり

第１期 円筒上層 C 式期： 集落の始まり

A 地区：小さな竪穴住居がいくつか散らばって見られる。
C 地区：竪穴住居跡はみられない。

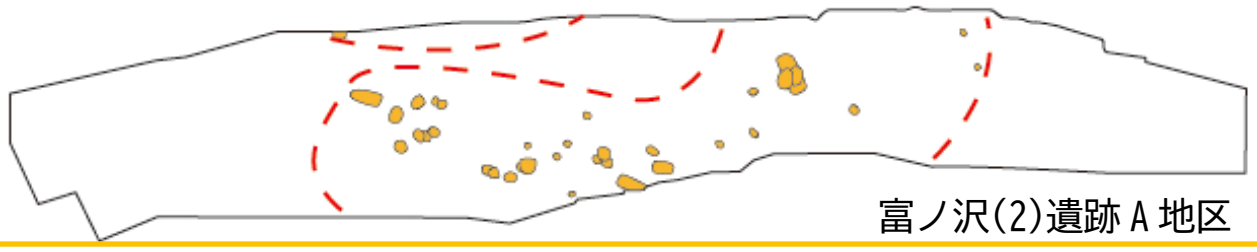
富ノ沢(2)遺跡 A 地区



富ノ沢(2)遺跡 C 地区

第２期 円筒上層 d 式期：人口が増える

A 地区：竪穴住居が馬蹄形状（ばていけいじょう）に立ち並ぶようになる
C 地区：竪穴住居跡がみられるようになる ※円筒上層 e 式期と同じ住居跡

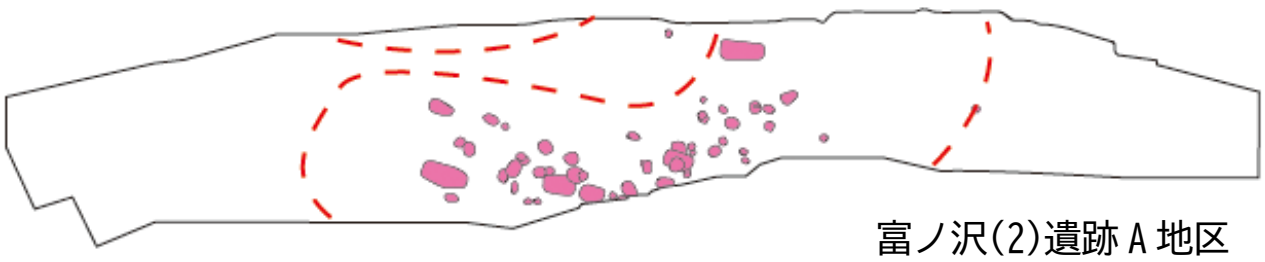


富ノ沢(2)遺跡 A 地区

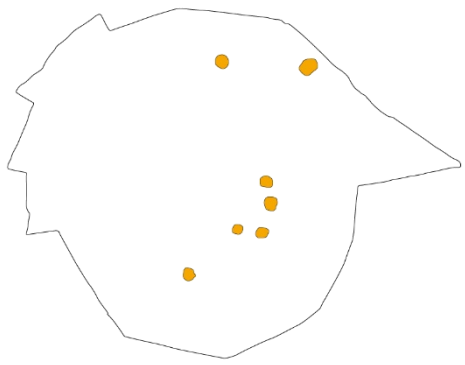
富ノ沢(2)遺跡 C 地区

第３期 円筒上層 e 式期：ムラの人口がさらに増えてくる

A 地区：密接に竪穴住居が建てられている
C 地区：竪穴住居跡がみられるようになる ※円筒上層 d 式期と同じ住居跡



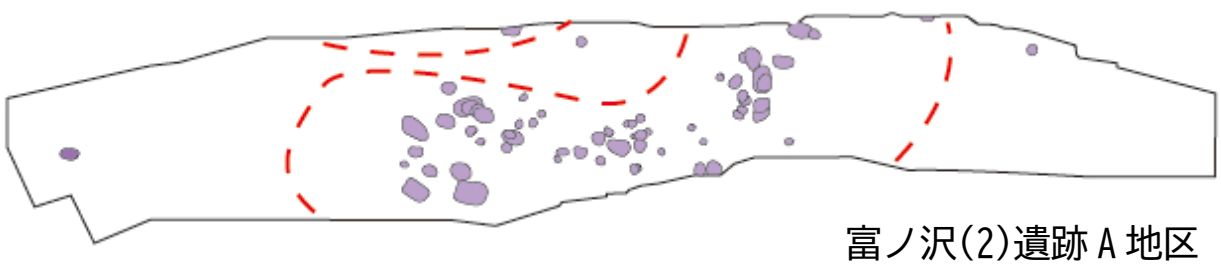
富ノ沢(2)遺跡 A 地区



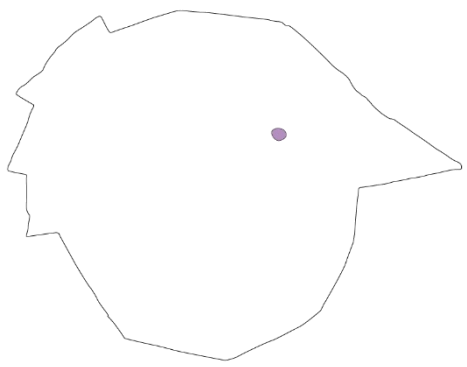
富ノ沢(2)遺跡 C 地区

第４期 榎林（えのきばやし）式期：富ノ沢(2)遺跡の住居跡数が最大

A 地区：竪穴住居跡の数が最大になる
C 地区：住居跡数が減少する。



富ノ沢(2)遺跡 A 地区

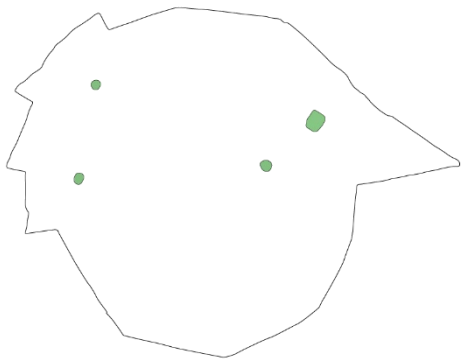


富ノ沢(2)遺跡 C 地区

第５期 最花式期：富ノ沢(2)遺跡の住居跡数が減少する

A 地区：竪穴住居跡の数が減少する
C 地区：住居跡数が少数、上昇する。

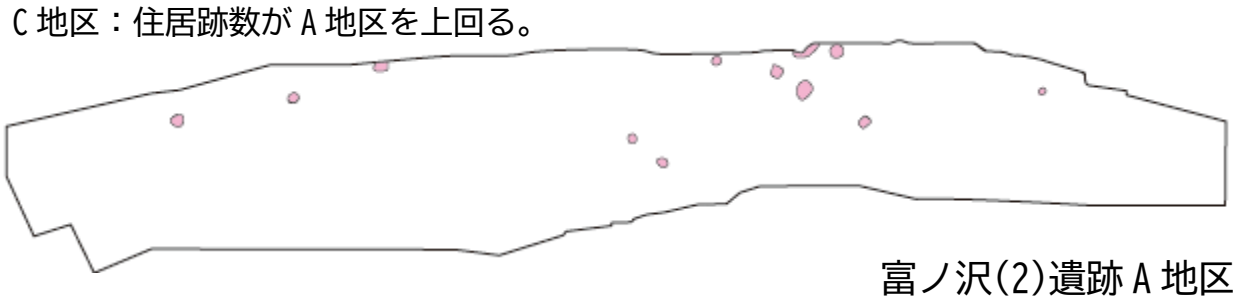
富ノ沢(2)遺跡 A 地区



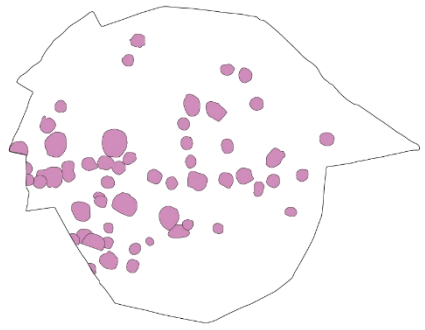
富ノ沢(2)遺跡 C 地区

第６期 大木 10 式併行期：ムラのおわり

A 地区：馬蹄形の集落が見えなくなる
C 地区：住居跡数が A 地区を上回る。



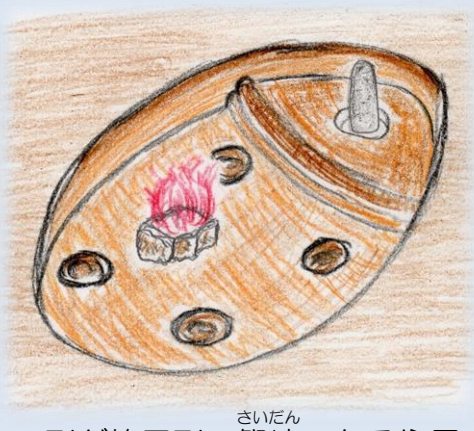
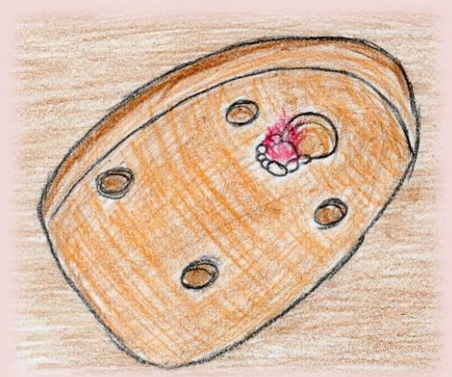
富ノ沢(2)遺跡 A 地区



富ノ沢(2)遺跡 C 地区

4 富ノ沢遺跡における土器・矢じり・住居跡の変化

青森県域で、六ヶ所村でも、縄文時代中期に入ると円筒土器や大木系に影響を受けた榎林式土器などが多く出土し、各地に大集落が出現する。中期中葉（C 式期）から宮城県を中心に分布する大木式土器が稀に出土することから、人々の交流がふえてきていることがわかる。富ノ沢遺跡の人々の生活は、土器だけでなく石器や住居跡まで東北地方南部の大木式土器文化の生活スタイルに徐々に変わっていった。

	東北北部系土器の変化	東北南部系土器の変化	矢じりの形の変化	竪穴住居と炉の変化
集落のはじめの頃	円筒上層 c 式土器 多	大木 8a 式土器 少	有茎石鏃	形が四角く石囲炉のある住居
	榎林式土器 多	大木 8b 式土器 少	有茎石鏃	 形が楕円形で祭壇のある住居
集落の終わりの頃	ボタン状突起をもつ土器（弥栄平遺跡） 少	大木 10 式土器 多	無茎石鏃	 形が卵型で複式炉のある住居

…東北北部のもの　　…東北南部のもの

富ノ沢（2）遺跡 A 地区の集落の初めの頃は、円筒土器が多く作られていたが、東北南部の大木式土器文化の影響を受け大木式土器が徐々に出土しはじめ、後に、C 地区に新たな大木式土器が大量に出土する大集落が出現する。石鏃も有茎石鏃から無茎の石鏃に代わり、住居スタイルも南の影響を受けた複式炉のある住居に代わっていった。環境の変化に伴い、東北地方南部からの移住者が、大量に入り込み、集落が大規模化していったと考えられる。

土器だけでなく、東北南部の生活様式に変化。移住者の持ち込みか。